

### 「見える事例検討会」について

—客観視することによる苦しみからの解放—

笠間市立病院 石塚恒夫

笠間市では今年度から毎月、地域包括ケア会議を開催しています。地域の医療・介護に携わる多職種（地域包括支援センター職員・ケアマネージャー・施設や事業所職員・医師・看護師・薬剤師・セラピストなど）が集まり、認知症の支援困難事例を対象に症例検討を行っています。多職種での情報共有を容易にするために、マインドマップを応用した「見える事例検討会」マップを採用しています。

マインドマップとは中央から放射状に複数の枝を伸ばした図であり、一つの枝に一つの言葉を入れて枝分かれさせます。その過程で、情報が整理され、アイデアが発散されます。「見える事例検討会」では、患者さんの職歴・家族構成・経済状況・日常生活動作・認知症の状況・情報を提供してもらいます。定型化されたマップに情報を落とし込むうちに情報が共有され、さまざまな立場から介入が提案されやすくなります。さらに地域での役割分担の認識が深まり、支援のネットワークが構築

されるのです。会議への参加をきっかけに、私の外来で要介護者と生活習慣病用の二つのマインドマップを用意しました。通常の外来でマップを書いていると、医師と患者さんの間で小さな「見える事例検討会」を開催しているようです。

こうした取組みの中で感じるのは、今まで患者さんの全体像が見えていなかったということ。認知症の問題行動や生活習慣病があると、周囲も本人もそこに関心が向かい視野が狭くなってしまふのです。患者さんの家族・社会背景を含めた全体像を把握できれば、問題とされる行動や悪いとされる生活習慣の原因が推測できるのです。うまくいかないと感じたらそこに固執せず、少し引いてみたり、広い範囲を俯瞰で見てみたりするといいのです。そこから生まれる気がつきで苦しみから解放させることが、地域包括ケアシステムや「かかりつけ医」としての役割であると感じています。



### 箱田の滝野不動堂

#### 笠間の歴史探訪 21

国道五〇号の石井交差点から宇都宮方面へ向かう県道一号線を進み、間もなく左手の山麓に堂が見えます。左折して片庭川を渡ると「市指定文化財・滝野不動堂」の石柱があります。

ここは箱田の南端に位置し、堂のある一帯は、石灰岩の露出した岩場で、堂の土台や背後まで続いています。

不動堂は北向きに建ち、二間四方の方形造りで、三面を回廊が廻り、北側の足場は片庭川に掛けられて懸崖造りです。屋根は宝珠を乗せた綱瓦葺き、軒は二重垂木で二手目には獏の木鼻、背面隅には鳥鼻、頭貫は獅子鼻が飾られ多様な装飾が施されています。

不動堂の本尊は木造不動明王ですが、『聚成笠間誌』によると、平安時代に平将門を調伏するため仏を迎えたとあります。また、伝承では弘法大師が大きな屏風岩に不動尊の姿を爪で描いたといわれています。江戸時代は山伏修験者の祈祷所でした。

現在の堂は享保十一年（一七二六）に笠間城下町の滝野氏が寄進して再興したので「滝

野不動堂」と呼ばれていると伝えられています。また、境内の岩から滝泉が流れていたのが「滝の不動」という説もあります。建築を担当したのは、箱田に在住していた宮大工棟梁の二代目藤田孫平治です。この堂は屋根の改修を除けば、木の目を生かし、多くの動物を施した木鼻、内部をくりぬいた籠彫りの飾りなど、江戸時代中期の建築様式の大部分が残されているので、平成九年（一九九七）に市の文化財に指定されました。

堂の側面には多くの絵馬や鉄剣、木刀、さらに千羽鶴、祈祷額が奉納されています。昭和前期までは出征兵士の武運長久、戦後は安産や育児、商売繁盛を祈願する仏として多くの人々が訪れていました。

（市史研究員 小室 昭）



滝野不動堂（箱田）